



倉敷市【岡山県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成28年12月 ■ 人口：482,790人 ■ 面積：356km²
■ 担当課：倉敷市教育委員会文化財保護課（平成30年3月現在）



「進取の気風と新旧の調和の精神のもとに育む風格ある歴史文化」を特徴とする倉敷市は、政治や交通の要衝として、海と川を通じた他地域との交流・交易の中であらたな文化を受容し、生業や伝統の技を磨き、育まれた歴史文化を受け継いできた。そうした歴史文化を生かし、まちづくりを進めるためのマスタープランとして歴史文化基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

流通・交易、殖産の精神
信仰、記憶、暮らしと観光

課題

- ・文化財に関わる担い手の減少
- ・歴史文化の価値や魅力の継承
- ・保存活用に関わる団体間の連携
- ・保存活用に関わる団体への支援

保存活用方針

- ・歴史文化を守り、育み、生かす基盤を整える
- ・歴史文化を適切に守り、育む
- ・歴史文化をまちづくりに効果的に活かす

保存活用のための取り組み

倉敷川畔、下津井・玉島地区の 歴史的町並みの保存・活用

倉敷市では歴史的町並みの保存・活用に重点的に取り組んでいる。市内に残る歴史的建造物や周辺環境を保存し、まちづくりへの活用を支援するために、国の補助事業の活用に加え、平成26年には「倉敷市まちづくり基金」を創設し、町家や古民家の再生整備に対する補助を行っている。



指定等文化財の保護

文化財保護法並びに県・市の条例に基づく文化財指定を進め、学術上、芸術上、歴史上などの面で特に価値の高い文化財の保護に取り組んでいる。指定等文化財には現状変更の許可制などにより適切な保護を行い、修理・修復や説明板の整備などを行っている。



古民家等の歴史的建造物の活用

空き家となった町家等の古民家は、NPO等を中心に体験・滞在施設、商業施設、住宅等として整備、活用し、保存を図っている。利活用の取り組みとしては「備中no町家deクラス」として、備中全域での生活文化体験イベントや町歩きなどの事業を展開している。



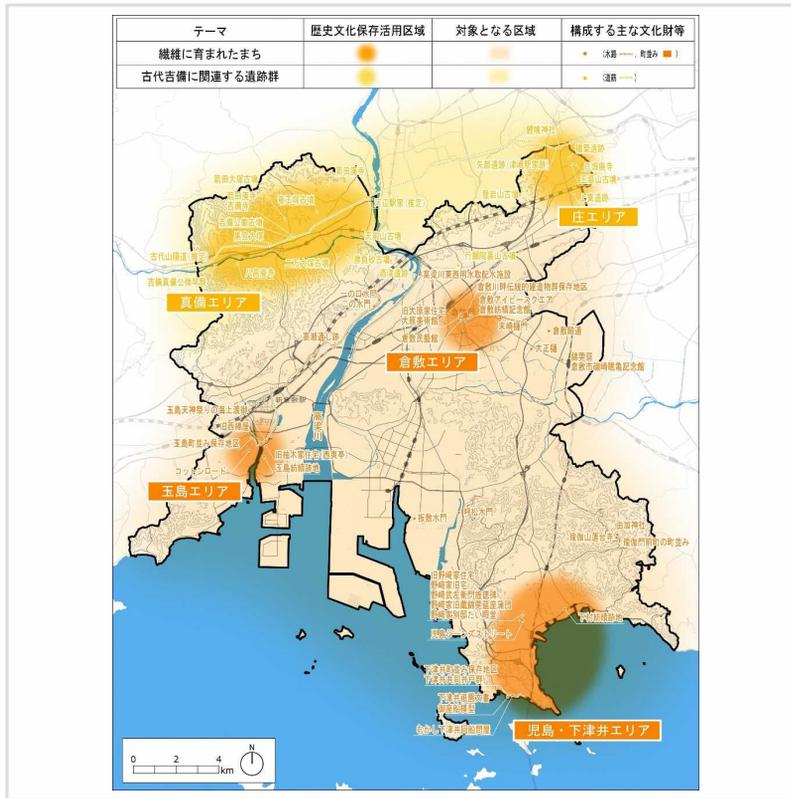
歴史文化の保存・顕彰と振興

各地域の保存会で文化財に標柱を建てる取り組みを行ったり、地域の発展や産業発展に貢献した人物の顕彰活動、研究会や講演会など様々な取り組みを行っている。また地域に残る民話を絵陶板として道路に埋め込んだり、旧町名の表示柱を設置する事業を実施している。





歴史文化保存活用区域



倉敷市の歴史文化を顕著に表す「繊維に育まれたまち」と「古代吉備に関連する遺跡群」という2つの特徴を施策展開の緊急性が高いテーマとし、それぞれの核となる区域を「歴史文化保存活用区域」に設定した。「繊維に育まれたまち」では、「倉敷」「児島・下津井」「玉島」の3区域、「古代吉備に関連する遺跡群」では「庄」「真備」の2区域の合計5区域を歴史文化保存活用区域に設定した。

ストーリー

- ① 倉敷エリア
- ② 児島・下津井エリア
- ③ 玉島エリア
- ④ 庄エリア
- ⑤ 真備エリア



策定後の成果（見込まれる効果）

① 学校等における地域学習の充実

遺跡などの現地見学や生業・産業などの体験学習、副読本を活用した小中学生の地域学習への取り組みの充実を図る。また、遺跡からの出土遺物の学校への貸し出しなどを通じ、本物に触れながら地域の歴史文化を学ぶカリキュラム作りを進める。これらを通じて、子どもたちの地域への誇りや愛着を育み、倉敷市の担い手を育てる。



② 継続的な文化財価値の掘り起こし

各地域に受け継がれる文化財の概要や見学の可否などの情報を発信し、多くの人々が活用できる仕組みを検討していく。また、市民等による町歩きや勉強など、各地域の活動団体による取り組みを支援することにより、市民が主体的に地域の文化財を守り、育み、活用する機会の増加を図る。



③ 歴史文化観光メニューの充実

町家での生活体験のイベントや糸織り勉強会、イ草の手織り体験など、倉敷市の歴史文化の魅力を五感で味わえる体験型・交流型の着地型観光に加え、工場など、これまで文化財としてとらえられてこなかった地域資源についても、見学ツアーなどを通じて、文化財としての認識を広げ、先人の知恵や努力が感じられる産業観光の魅力向上に努める。

